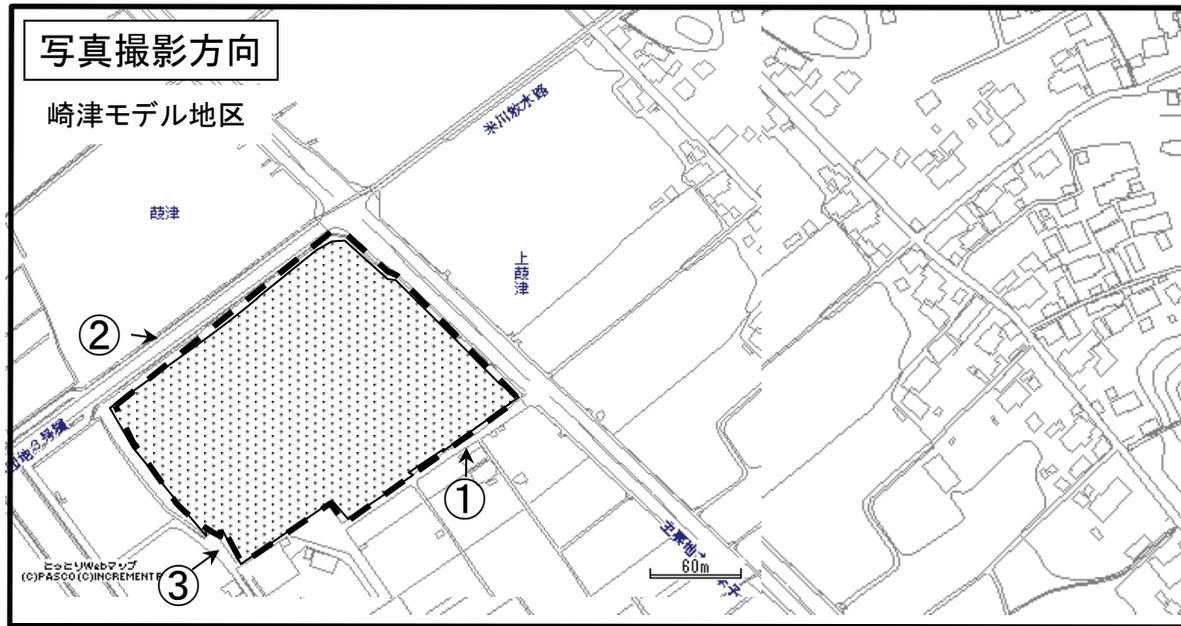


中海沿岸農地の排水不良対策について（報告）

[中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ]

排水不良農地の解消に向けた取り組み



①

かさ上げ前



かさ上げ後



耕作状況 (R6.7)



今年度 (R6.5) にかさ上げ完了した箇所。早速、白ねぎを植えている。

②

当初



かさ上げ後



耕作状況(R6.5)



他にも、各種いもを植えている。

耕作者の声

白ねぎを植えている。「今まで畝まで滞水があった。かさ上げしてから水はけが良くなった。」

③

当初



かさ上げ後



耕作状況(R6.5)



耕作者の声

白ねぎを植えている。「排水性が良くなったため作付けしやすくなった。」

排水不良農地のかさ上げによる取組成果

【取組内容】

かさ上げによって排水不良農地の地盤を高くすることにより、排水性を高め、耕作しやすい農地にする。
また、かさ上げに使用する土は、近隣の他工事流用土から耕作に適した土質のものを搬入。

◇ 農地かさ上げ工程 ◇

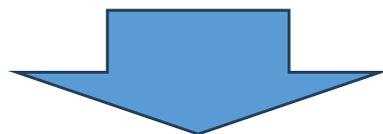


【取組結果】

かさ上げを行ったことにより、排水不良による問題が解消され、耕作しやすい農地となった。

今後の中海沿岸農地排水不良WGについて

- 崎津モデル地区ほ場のかさ上げが本年度で完了し、一定の効果が確認されたことで、対策手法が概ね確立されている。
- 本WGの機能は、排水不良解消に向けた技術支援及び補助事業活用等に資する助言、建設残土の情報共有等のため構成員を構成したが、対策手法の確立等により、今後WGでこれらを議論する必要性がない。



中海会議のワーキンググループとしては、農地排水不良対策の検討を行っていく必要性がなくなっており、中海沿岸農地排水不良WGを廃止することとしたい。

※今後の排水不良農地の解消対策は、地元要望に応じ、引き続きかさ上げ事業を行っていく。（関係機関にも必要に応じて相談する）

中海沿岸農地排水不良について

【経緯】

中海沿岸（彦名・崎津）農地を所有する農家から「本庄工区干拓堤防」が築造されてから、地下水位の上昇等で農地が排水不良となり農作物に被害が生じているとの指摘があったものの本庄工区干拓堤防との因果関係が不明であり、平成 17 年度に現地調査を実施し改善策を検討。

○調査内容について報告(H18. 1. 17)

- ・排水不良農地 104ha、標高 90cm 以下の農地と概ね一致。
- ・田畑が混在し、農地の標高が低く地下水位も高いことから排水不良となっている。

○地元が対策を検討するため補助事業制度について説明（H18. 3. 8）

- ・干拓堤防の影響や大橋川拡幅の絡みで「農家負担ゼロ」での対策を要望。

○第 1 回中海会議で「中海沿岸農地の排水不良について」問題を提起(H22. 4. 22)

- ・関係機関で構成するグループによる情報交換や排水不良対策を協議検討する場として「中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ」を設置。

○第 1 回WG会議(H22. 10. 6)

- ・崎津のモデル地区（面積 3.3ha）を報告。他工事流用土による農地のかさ上げについて流用土の情報共有、土質など具体的に検討。

○第 2 回WG会議(H23. 7. 22)

- ・崎津モデル地区に約 4,000 m³（搬入面積 0.8ha）の他工事流用土を搬入したことを報告。

○第 4 回WG会議(H25. 7. 17)

- ・崎津モデル地区は、農業基盤整備の補助事業を実施するのに、農振農用地区域への編入が必要であり、崎津地区（21.8ha）を対象に関係者等と意見交換や意識調査を実施したが、耕作者（地権者）間で賛否両論あり合意形成が図れていないことを報告。

○第 6 回WG会議(H27. 7. 1)

- ・ストックヤードを設置したことを報告。ストックヤードの設置により少量から、また、1年を通して搬入可能となり営農時期の調整も無くなるため、他工事流用土の搬入を促進させる。

○第 7 回WG会議(H28. 6. 2)

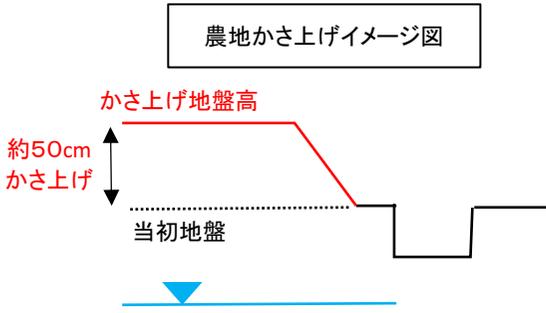
- ・崎津モデル地区に約 150 m³（搬入面積 0.03ha）の他工事流用土を搬入したことを報告。

- ・鳥取県西部地区建設発生土対策協議会へ H22. 10 より情報共有を行っていたが H27. 12 より文書により情報提供をお願いした。
- 第 8 回WG会議 (H29. 6. 5)
- ・崎津モデル地区に約 650 m³ (搬入面積 0. 13ha) の他工事流用土を搬入したことを報告。
- 第 9 回WG会議 (H30. 6. 22)
- ・崎津モデル地区に約 2, 050 m³ (搬入面積 0. 41ha) の他工事流用土を搬入したことを報告。
- 第 1 0 回WG会議 (R1. 5. 14)
- ・崎津モデル地区に約 450 m³ (搬入面積 0. 09ha) の他工事流用土を搬入したことを報告。
- 第 1 1 回WG会議 (R2. 5. 27)
- ・崎津モデル地区に約 1, 550 m³ (搬入面積 0. 31ha) と彦名地区に約 900 m³ (搬入面積 0. 18ha) の他工事流用土を搬入したことを報告。
 - ・崎津モデル地区の農地をかさ上げた効果があることを報告。
- 第 1 2 回WG会議 (R3. 5. 28)
- ・崎津モデル地区に約 950 m³ (搬入面積 0. 19ha) の他工事流用土を搬入したことを報告。
 - ・新たなかさ上げ農地として地元希望地を報告。
- 第 1 3 回WG会議 (R4. 6. 2)
- ・崎津モデル地区に約 100 m³ (搬入面積 0. 6ha) の他工事流用土を搬入したことを報告。
 - ・かさ上げ土質によって栽培できる作物を関係機関等と連携して取り組むことを報告。
- 第 1 4 回WG会議 (R5. 6. 8)
- ・崎津モデル地区に約 500 m³ の他工事流用土の搬入予定を報告。
 - ・かさ上げ土質によって栽培できる作物について聞き取り状況を報告。
- 第 1 5 回WG会議 (R6. 6. 10)
- ・崎津モデル地区の完了を報告。
 - ・かさ上げ土質によって栽培できる作物について聞き取り状況を報告及び今後の対応について確認。

排水不良農地の現状、対策等について

現状	<p>○標高の低い農地は排水不良による冠水が常習的に発生し、条件の悪さなどから主に水田の耕作放棄地が散見される。</p> <p>○水田と畑が混在している場所では、水田周辺の畑地は水田からの浸透水により地下水位が高い傾向にある。</p> <p>○中海護岸周辺の農地は標高が低いことに加え、地下水位も高く、排水不良となっている。</p> <p>○地元負担ゼロによる排水不良対策事業を要望している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>耕作放棄地(水田)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>排水不良農地(畑)</p>  </div> </div>
----	--



改善策	<p>○他工事流用土による農地のかさ上げを実施し、農地の排水不良について解消を図る。</p>	<p>農地かさ上げイメージ図</p> 
効果	<p>○モデル事業として、他工事流用土による農地のかさ上げを崎津モデル地区で実施し、農地の排水不良を解消。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>農地の排水効果を確認し、他の排水不良農地に拡げていく。</p>	

○かさ上げ事業実施時に発生した課題及び対応状況

- ・ほ場に適した弓浜部と同じ土質の砂、砂質土を利用するため、他工事流用土の搬入が不安定である。
⇒ストックヤードを拠点とした他工事流用土による農地のかさ上げを促進するために、「鳥取県西部地区建設発生土対策協議会」へ情報提供を依頼する。(土質:弓浜部の砂、砂質土) ※毎年依頼中
- ・近隣の他工事流用土について、把握に努めており、搬入可能な土質のものであってもストックヤードまで運搬費の負担が生じ利用できない場合がある。
⇒他工事流用土を受入れできるように場所の確保を進める。 ※対象区域耕作者に確認
- ・他工事流用土は石が混入しており、かさ上げしてから耕作者より一部苦情がある。
⇒都度、除石を行っている。
- ・水田は、かさ上げを行うと用水路からの改修(地元負担金の発生)や上流水路からの勾配調整が必要となる。
⇒畑による使用をお願いする。

土質:弓浜部の砂、砂質土



他工事流用土:石の混入



○その他対応状況

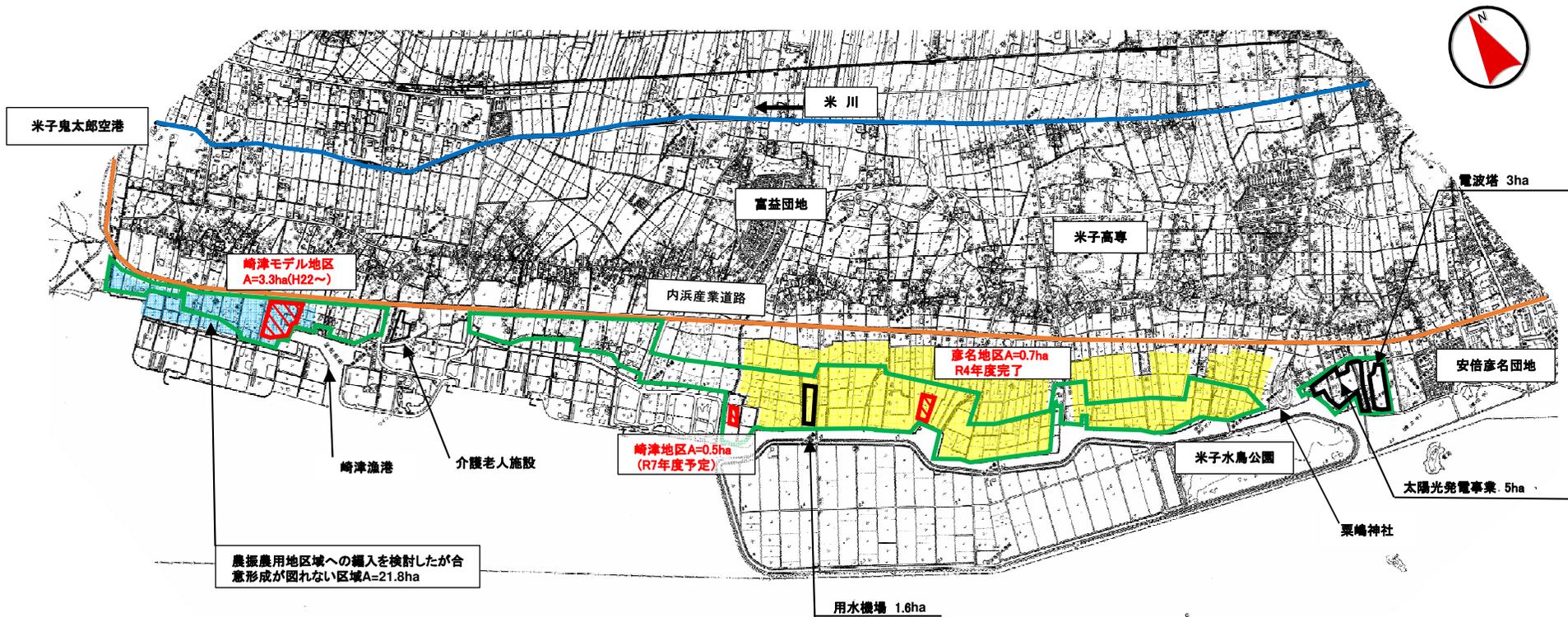
- ・崎津モデル地区のかさ上げした効果を検証する。(地盤高、地下水位、作物の収穫量など) ⇒令和2年度に検証済
- ・崎津モデル地区以外の農地のかさ上げを行う箇所の確保を進める。 ⇒令和7年度より崎津地区を実施予定

《今後の対応について》

潮位上昇によって排水不良となっている農地を改善するという本来の目的や、耕作者がどのような作物の作付けを望んでいるかによって土質や石の混入程度等の条件も変わってくることを踏まえ、農地のかさ上げを行う時に、耕作者に排水不良解消後の予定作物の意向を確認し、それに合わせた土の搬入を行うことで耕作の改善を図っていくこととする。

なお、かさ上げにより栽培できる作物についての新たな情報や、耕作放棄地対策などの動向を注視しながら、都度、有効性を確認、検討していく。

中海沿岸農地排水不良区域平面図



農振農用地区域への編入を検討したが合意形成が図れない区域A=21.8ha

凡 例	
	農振農用地区域
	排水不良区域 A=104ha (標高90cm以下)
	かさ上げ農地

排水不良農地への他工事流用土による受入れについて

崎津モデル地区 A=3.3ha ※実際の農地面積2.91ha(50cm客土)

かさ上げ状況

かさ上げ完了年月	受入れ量	かさ上げ面積
・平成22年11月	約3,000m ³	A=0.8ha
・平成23年1月	約1,000m ³	
・平成28年6月	約150m ³	A=0.16ha
・平成29年3月	約650m ³	
・平成29年12月	約1,200m ³	A=0.24ha
・平成30年3月	約850m ³	A=0.17ha
・平成30年8月	約450m ³	A=0.09ha
・令和元年9月	約1,550m ³	A=0.31ha
・令和2年11月	約950m ³	A=0.19ha
・令和3年12月	約500m ³	A=0.1ha
・令和4年6月	約2,500m ³	A=0.5ha
・令和5年6月	約1,250m ³	A=0.25ha
・令和6年5月	約500m ³	A=0.1ha
計	約14,550m ³	A=2.91ha (進捗率100%)



崎津モデル地区であった課題

- ・農振農用地区域でないので農業基盤整備の補助事業を活用できない。(崎津モデル地区は、農業基盤整備の補助事業を実施するのに、農振農用地区域への編入が必要であり、崎津地区(21.8ha)を対象に関係者等と意見交換や意識調査を実施したが、耕作者(地権者)間で賛否両論があり合意形成が図れなかった)
- ・ほ場に適した弓浜部と同じ土質の砂、砂質土を求めており、毎回、弓浜部の工事発注機関に他工事流用土の搬入をお願いしていた。
- ・近隣の他工事流用土について、把握に努めており、搬入可能な土質のものであってもストックヤードまでの運搬費の負担が生じ利用できない場合があった。
- ・他工事流用土は石が混入しやすいため、かさ上げしてから耕作者より一部苦情があり、除石を行っていた。
- ・水田はかさ上げを行うと用水路から改修が必要となり、地元負担金が発生するため、畑による使用をお願いしていた。